

『生命地域』を未来へつなぐ しまね・中山間地域セミナー』

10月3日（金）に当センターにおいて、『生命地域』を未来へつなぐしまね・中山間地域セミナー』を開催しました。

当センターは、“中山間地域は命を育むみなもと”であるという考えのもと、『生命地域』としての中山間地域の再生を理念として掲げています。

第1回目である今年度は、「食と地域」をテーマとして、京都大学人文科学研究所教授の藤原辰史先生に、『生類の思想-「生命地域」を食から考える』という演題で基調講演いただきました。

続いて、当センター地域研究科の有田研究統括監より「次世代の食を支えるために必要な視点とは」、鳥獣対策科の澤田科長より「地域の農と食を守る地域ぐるみの鳥獣対策」という内容で研究成果の報告を行った後、意見交換を行いました。



を開催しました



【意見交換会の様子】



【センターからの報告①】
地域研究科 有田研究統括監



【センターからの報告②】
鳥獣対策科 澤田科長

基調講演



藤原先生から、先生が考えられる「生命地域」のイメージについていくつかの例をお示しいただきました。またその上で、「生命地域」を「巨大な食権力から独立した地域」と定義され、穀物メジャーによる穀物の集中と投機の変遷・水俣病事件・学校給食など様々な事例を示されながら、素晴らしい資源にあふれる中山間地域（生命地域）を自分たちで守り、生かし、活用していくことが重要とお話いただきました。

当日はあいにくの雨の中でしたが、100名を超える方にご来場いただきありがとうございました。

今度も新たなテーマで、セミナーを開催いたしますので、是非お越し下さい。

なお、当日の講演の様子を動画でご覧いただけますので、ご希望の方はこちらより視聴をお申し込み下さい。

（視聴可能期限令和8年3月31日）▶



県民の森 ふれあい講座



～2025年秋をふりかえる～

10/4 ⑤ スウェーデントーチ& ブナのくま鈴作り

針葉樹のスギ・ヒノキ、広葉樹のブナを使った木工体験。それぞれの木の特徴や質感の違いを感じていただくことができました。



丸太でたき火を楽しめるスウェーデントーチ



ブナ材をカットしてオリジナルのくま鈴に

最後はトーチに点火、ポップコーン作りを楽しみました。



県民の森では、自然豊かなフィールドを利用して、森林とふれあうイベント「ふれあい講座」を定期的に開催しています。今年度は12月までに12回の講座を開催し、270名の参加がありました。この秋に開催した3講座をご紹介します。

おおよろぎさん

11/1 ⑤ 大万木山きのご観察会

ブナ林での初めてのきのご観察会。参加者は熱心にきのこを探され、きのこが見つかるたび、先生を囲む和やかな輪ができていました。



ついに出会えた天然のブナシメジ！白く輝いてみえました。

中毒例の多いツキヨタケの特徴を解説



山頂小屋できのご鑑定会

とうげんきょう

11/8 ⑤ 紅葉の等検境縦走

県民の森吉田地区のトレッキング。この日は毎週土曜日に天気が崩れ雨の講座ばかりでしたが、この日は、素晴らしい秋晴れとなりました。



等検境ルートから眺望を楽しむ参加者



ふれあい講座レポートアンケートにお寄せいただいた感想と併せ、講座の様子をコラム形式でご紹介しています

お問い合わせ：
県有林管理スタッフ 0854-76-2302

編集・発行

島根県中山間地域研究センター
〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207
TEL 0854-76-2025 FAX 0854-76-3758

ブックナンバーはこちら！



WEBで検索 島根県中山間地域研究センター 検索



島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press

チュウサンカンプレス

令和8年
Vol.42

研究の森から中山間地域を応援します

土着天敵って知ってる？

～特用樹栽培の害虫対策～

【きのこ・特用林産科】



鳥獣被害対策支援ガイドブックとイノシシ対策防護柵設置マニュアルを作成しました。

【鳥獣対策科】



土着天敵って知ってる？

～ 土着天敵の害虫対策～

畑や庭で丹精込めて育てた作物が昆虫やダニに食べられてしまった経験はありませんか？

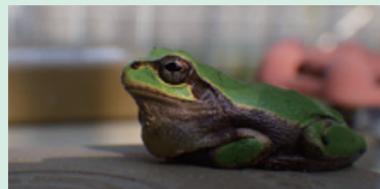
作物を荒らす害虫を駆除するための手っ取り早い方法は農薬の散布です。しかし、農薬を不適切に使用すると環境に負荷がかかるほか、かえって害虫が増えてしまうこともあります。このような問題があることから、「土着天敵」を利用した害虫対策が近年注目されています。

土着天敵とは

その地域に元々生息し、農林生産物の害虫を捕食・捕食寄生*する生物のことを指します。

栽培地の周囲で生活する土着天敵に集まってもらい、害虫を食べさせることで作物被害が低減されます。

*捕食寄生とは、エサとして寄生された生物（宿主）を最終的に死亡させる寄生方法のこと



ニホンアマガエル



ハナグモ



アトシオオゴミムシ



具体的にはどんな生物が土着天敵なの？

私たちアシナガバチやカマキリのような肉食の昆虫、害虫に寄生するハチ・ハエ、クモ、ダニなどが主に含まれるよ。カエルや鳥の仲間も広い意味で土着天敵といえるね。



コシアブラの害虫

当センターで栽培実験しているコシアブラを観察していたところ、8月に丸々と太ったハスモンヨトウの幼虫が多数見つかりました。本種はさまざまな植物を食べることで知られ、葉の食痕は網目状になります。また、幼虫は発育とともに農薬が効きにくくなるため防除が難しいことでも有名です。



ハスモンヨトウ幼虫



被害されたコシアブラ葉

土着天敵の利用

対策に悩んでいると、ハスモンヨトウの幼虫を襲う肉食昆虫たちが姿を現しました。センター周辺の林縁部や草地から飛来したと考えられます。アシナガバチやカマキリは食欲旺盛で、多くの幼虫を捕食することが期待できます。実際に両種の出現した後は、見つかる幼虫の数が減少しました。このように、土着天敵の利用は農薬が効きにくい害虫に有効である可能性が示されました。

今後まきのこ・特用林産科では、特用樹における土着天敵の効果を調査します。

コシアブラで確認された土着天敵



コアシナガバチ



オオカマキリ

土着天敵を畑や庭で増やすためには

- ① 天敵が生息している周囲の自然を残す
- ② 農薬の利用を最小限にする
- ③ 天敵を呼び寄せる植物を近くに植えるが効果的です！



鳥獣被害対策支援ガイドブックとイノシシ対策防護柵設置マニュアル

作成しました。

当センター鳥獣対策科では、鳥獣による農林業被害を防止する目的で、様々な獣種や対策手法をまとめた、マニュアルやパンフレットを作成しています。その中から新しく作成した、ガイドブックとマニュアルについて紹介します。



出沒抑制対策

- ・人里にある餌と隠れ場所をなくす

侵入防止対策

- ・農地に野生鳥獣を侵入させない
- ・農作物を野生鳥獣に食べさせない

捕獲対策

- ・加害個体や問題個体を捕獲する

鳥獣被害対策支援ガイドブックについて

地域ぐるみで実施する鳥獣被害への基本的なアプローチ方法を取りまとめるとともに、これまでの取り組み実例も掲載しました。鳥獣被害の相談を受ける行政職員や地域リーダーの方などが現場での対策の方向性の検討から具体的な被害対策や体制づくりの支援に用いることができるガイドブックとして作成しております。

イノシシ対策防護柵設置マニュアルについて



本マニュアルは、イノシシによる農作物被害を防ぐために有効な対策である防護柵の設置について、柵を購入する前に必要な計画の立て方、柵の適切な設置方法、および被害防止効果が持続する柵の維持管理手法をまとめました。近年、鳥獣被害防止総合対策交付金などの助成制度を活用し、複数の農地や集落全体をまとめて柵で囲うケースが多いため、そのような広域防護柵の設置に合わせた内容になっています。さらに個別で自分の農地に柵を設置する方にも参考にさせていただけます。また、柵を設置する農家や地域住民の方だけでなく、行政担当者の方にも活用していただけます。



これらのガイドブックとマニュアルは下記のQRコードや「鳥根県 鳥獣被害支援ガイドブック」、「鳥根県 イノシシ対策防護柵設置マニュアル」と検索して中山間地域研究センターのHPからダウンロードすることができます。ぜひご覧になってください。



鳥獣被害対策支援ガイドブック (PDF: 9.32MB)



イノシシ対策防護柵設置マニュアル (PDF: 6.26MB)